

「人間、見た目が九割」とは最近よく言われることですが、多くの人は相手の顔を見てその人の性格や人柄を判断します。

顔というのは千差万別で、怒ったような顔、柔らかな顔、暗い顔など様々です。したがって、顔のつくりによって得をする人と損をする人がいます。

心理学者で作家の樺巨純氏は、『なぜか人に好かれる人、嫌われる人』（日本文芸社）の中で、顔の印象について次のように述べています。ご紹介しましょう。

*

ミッキーマウスやドラえもんなど、世界中で人気のあるキャラクターは、頭が大きく目は丸く、ふつくとした体つきをしています。また、テイベイアやキティちゃんなどのクマやネコ系のぬいぐるみ、動物園のコアラやパンダなどが、多くの人々の人気を集めているのは、みんな可愛らしさや親しみを感じる顔の特徴を持っているからだといえます。

アメリカの比較行動学者のロレンツは、その特徴を「ベイビネス（赤ちゃんらしさ）」と説明しています。このような顔を持つ人は、どこか抜けているけれども、愛嬌がある。仕事のミスをして、何となく許してしまう。手を伸ばして触れてみたくなる。放っておいたら心配。などの保護欲求を生じさせ、親近感や好意を持たれることが多いようです。

また顔の大小や形でも、相手に与える印象は変わります。一般的に顔の大きい人は、「でかい顔をするな」といわれるように、



え・牧えみこ

顔は変えられる だから「履歴書」

自己主張が強く横着だと見られがちです。しかし反面、積極的でエネルギーにあふれている印象をも与えます。

逆に小さい顔の人は、内気で繊細、控えめで謙虚という印象を与え、それだけに実力があっても注目されたり評価されるのが少ないようです。ただし、人間関係で他人と衝突をしたり、仕事で大きなトラブルを抱えることはありません。

次に顔の形。丸顔の人は大らかで楽観的、温かみを感じさせるため、営業や販売などの部署が向いているといわれます。

角張った四角い顔の人は、真面目で頑固という印象。人間関係では不器用なところがあります。実力をつけて成功する人が多いようです。

逆三角形の顔の人は、知的でシャープな印象があり、いわゆる秀才タイプ。頭がよく、鋭い感性を持っているため、仕事のできる印象を与えます。反面、冷たいような印象を抱かれやすいため、第一印象では親しみを抱かれることがあまりありません。

その他、顔の部位（目、眉、鼻、口、耳、顎）などでも、印象は大きく変わります。

*

「顔は親先祖の遺伝だから変えようがない」と嘆く人もいますが、心の持ち方、行動の取り方、言葉の使い方などで、顔の輝きや印象は大きく変わるので。

周囲に良い印象を与えておいて損はありません。心・行動・言葉を磨くことに徹し、お客様に好かれ地域の方々々に信頼される「顔づくり」へ向けて努力したいものです。